

1 支援対象の活動区分（ふしの干潟いきもの募金規約第4条）

区分	対象事業（延べ件数）	
	R3	R2
①干潟環境の向上・保全、景観の保全	4	5
②生物多様性の向上、漁場環境の改善	5	5
③環境学習等の親水活動	3	3
④調査研究・モニタリング	7	8
⑤活動等の広報及び啓発活動	4	3
⑥募金の運営・広報	1	1
⑦その他、干潟等の保全・再生に関すること	1	0

2 支援対象活動及び実施者等（案）

協議会委員及びワーキンググループから、10件の応募があった。

受付番号	実施者		活動名	活動区分	要望額	配分額	R2配分額	適合性の確認	
								活動区分	経費
21-1	山口大学	山本 浩一	河川水中におけるカプトガニ由来の環境DNA濃度の時系列変動	④	200,000	200,000	200,000	○	○
21-2①	干潟・水産資源再生WG	水産大学校生物生産学科沿岸生態系研究室	干潟に生息する肉食性巻貝と二枚貝の捕食-被食関係の解明	①②④	200,000	200,000	200,000	○	○
21-2②		環境保健センター環境科学部、自然保護課	底生生物モニタリング調査、被覆網への藻の付着影響調査	①②④	200,000	200,000	200,000	○	○
21-2③		MPO法人野鳥やまぐち	胴長を着用した新たな干潟体験学習	③⑤	200,000	200,000	200,000	○	○
21-2④		瀬戸内海区水産研究所 生産環境部 干潟生産GR 重田利拓・辻野 睦	干潟域を生活史で利用する魚類の生態と成育場の生息環境に関する研究	④⑤	200,000	200,000	200,000	○	○
21-2⑤		後藤 益滋	手のひらサイズの超小型シーケンサーによる解析の検証及び希少種の把握	④	200,000	200,000	200,000	○	○
21-3	カプトガニWG	原田直宏	カプトガニ幼生生息調査・観察会	③④	200,000	200,000	200,000	○	○
21-4	持続可能な里海づくりWG	株式会社ライフスタイル研究所	梶野川河口干潟等における里海再生活動の共感者増加に向けた取組	⑤⑥	80,000	80,000	80,000	○	○
21-5	梶野川流域連携促進協議会		梶野川河口干潟再生活動2021	①②③	-	-	-	○	○
事務局	事務局		ニュースレター作成	⑤	100,000	100,000	100,000	○	○
			物品購入費（被覆網）	①②④	200,000	100,000	200,000		
			処分費（被覆網）	②⑦	200,000	200,000	-		
支援対象活動小計					1,980,000	1,880,000	2,039,300		
ふしの干潟いきもの募金委員会事務局		事務局	事務費（振込手数料等）	-	50,000	10,000	50,000		
合計					2,030,000	1,890,000	2,089,300		

### 第 3 回 (2021 年度) 支援対象活動及び実施者等の計画書

受付番号	21-1
------	------

#### 1. 申請者 (活動実施者)

氏名・団体名	山口大学 山本 浩一
--------	------------

#### 2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・モニタリング
活動名	河川水中におけるカブトガニ由来の環境 DNA 濃度の時系列変動
活動目的	環境 DNA を用いたカブトガニの活動の観測
活動場所	樫野川・長沢川
活動内容 ・計画	<p>既存のカブトガニの生息調査は直接干潟に赴いて幼生を目視で調査するか、海岸におけるカブトガニの産卵泡を観察する方法によってきたが、環境 DNA を用いることでこれまで生息が明らかでなかった河川における生息可能性の発見につながり、さらに詳細な調査に結びつけることができる。これまで樫野川河口干潟における幼生生息調査結果を所有しており、幼生生息数の増加減少と環境 DNA 濃度の変動について関係づけられる可能性がある。</p> <p>そこでカブトガニの環境 DNA 濃度の経時変化を、カブトガニの生息が既に確認されている河川を対象に調査することにより他県河川での調査タイミングの参考となるようなデータとを取得する。カブトガニ幼生が河口域に生息していることがわかっている河川である長沢川水系長沢川、樫野川水系樫野川、長沢川水系長沢川において大潮満潮時の河川における採水を二週間おきに行い、カブトガニ幼生が活動し始める時期 (5 月以降)、カブトガニ成体が産卵のために河口域に集結する時期、カブトガニ幼生の活動が不活発になる時期 (10 月以降) の環境 DNA 濃度の変化を明らかにする。</p> <p style="text-align: center;">発表予定学会：水環境学会誌</p>

#### 3. 活動予算

申請金額	200,000 円		
予算の支出期間	2021 年 5 月 ~ 2021 年 12 月		
希望する支払方法	希望する支払方法に <input checked="" type="checkbox"/> してください(概算払いを希望される場合は、その金額)。 <input type="checkbox"/> 精算払い(全額) <input checked="" type="checkbox"/> 概算払い ( 200,000 円)		
支出予算	応募案内中の表 1: ①~⑦の項目ごとに記入してください。		
	区分	予算額(円)	内容
	消耗品	200,000	環境 DNA 分析用消耗品
	合計	200,000	

### 1. 申請者（活動実施者）

氏名・団体名	干潟・水産資源再生 WG (主体：水産大学校生物生産学科沿岸生態系保全研究室 南條 楠土)
--------	--

### 2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 干潟環境の向上・保全、景観の保全 <input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・モニタリング <input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性の向上、漁場環境の改善				
活動名	干潟に生息する肉食性巻貝と二枚貝の捕食－被食関係の解明				
活動目的	アサリをはじめとする水産上有用な二枚貝資源の回復を目指した研究として、それらの捕食者である肉食性巻貝による二枚貝捕食の実態を明らかにすることを目的とする。				
活動場所	榎野川南潟				
活動内容 ・計画	<p>これまでの成果により、肉食性巻貝であるアカニシとサキグロタマツメタは、貝殻の薄い二枚貝種を積極的に捕食するという選択性があることが判明した。さらに、アカニシは嗅覚を用いて餌種を探索するが、サキグロタマツメタにはそのような探索行動を示さないことも明らかとなった。しかし、これらの巻貝に対して、二枚貝のどのような成分物質が嗅覚を刺激し、それにともなって捕食行動がどう変化するかはまだよくわかっていない。そこで今年度は、室内実験により肉食性巻貝による二枚貝への誘因ファクターと詳細な捕食行動の変化を明らかにすることを目的とする。</p> <p>まず、フィールドで実験対象とする巻貝と二枚貝を採集する。次に、自作した実験水槽の中央に巻貝、両端に条件の異なる餌条件を設置し、巻貝がどちらに移動するかを調べることで誘因の有無を検討し、ビデオカメラを用いて捕食行動を詳細に記録する。これを二枚貝生貝、死貝、二枚貝飼育海水（ゼラチンで固めたもの）、餌なし、殻の薄い二枚貝種、厚い二枚貝種の組み合わせを変えて実施し、巻貝がどの要因によって二枚貝に誘引され、その際にどのような捕食行動を取るかを検討する。なお、実験時には水槽の両端から水流を流し、巻貝が餌の匂いを検知するよう工夫する。</p> <p>&lt;年間スケジュール&gt;</p>				
		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
	野外調査	○	○	○	
	室内実験		○	○	○
	そのほか		学会発表	学会発表	論文投稿

### 3. 活動予算

申請金額	200,000 円		
予算の支出期間	2021年 4月 ～ 2022年 3月		
希望する支払方法	希望する支払方法に <input checked="" type="checkbox"/> してください(概算払いを希望される場合は、その金額)。 <input type="checkbox"/> 精算払い(全額) <input checked="" type="checkbox"/> 概算払い ( 200,000 円)		
支出予算	応募案内中の表1：①～⑦の項目ごとに記入してください。		
	区分	予算額(円)	内容
	旅費	45,000	調査旅費： 下関－南潟 (30円×75km×往復×10回)
	消耗品費	40,000	水槽飼育用品 (水槽用クーラー、ヒーターなど)
	消耗品費	70,000	ビデオカメラ
	事務管理費	45,000	論文投稿費、英文校閲費
合計			

### 1. 申請者（活動実施者）

氏名・団体名	干潟・水産資源再生ワーキンググループ (山口県環境保健センター環境科学部、自然保護課)
--------	--

### 2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 干潟環境の向上・保全、景観の保全 <input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・モニタリング <input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性の向上、漁場環境の改善
活動名	① 底生生物モニタリング調査 ② 被覆網への藻の付着影響調査 (主体：山口県環境保健センター・県自然保護課)
活動目的	① 干潟の底質環境や生物多様性の向上を目的とした自然再生活動等の効果を評価するため、アサリをはじめとした底生生物調査を実施する。 ② 被覆網によるアサリ再生活動について、より良い成育環境の創出や作業負担の減少などに資するため、網への藻の付着による底質環境等の変化が、アサリの成育に与える影響を検討する。
活動場所	榎野川河口干潟（南潟）
活動内容・計画	① <b>底生生物モニタリング調査</b> 四半期ごとに、50 cm 四方のコドラート、5 mm メッシュフルイを用い、被覆網下の底質に生息する底生生物の同定及び個体数の計数を行う。なお、アサリは、殻長組成についても調査する。調査地点等は今後決定する。 ② <b>被覆網への藻の付着影響</b> 被覆網に付着した藻は、夏場の腐敗、被覆網への砂の堆積や被覆網の捲れなど、 底質に生息するアサリ等の成育に悪影響を与えることが懸念されている。このため、定期的に網を交換しているが、藻の付着した網は重く、作業者の大きな負担となっている。そこで、昨年度に引き続き、藻が付着したままの網と適宜交換する網（藻の付着がない網）下の四半期ごとのアサリの個体数調査及び底質調査を実施する。



### 3. 活動予算

申請金額	200,000 円		
予算の支出期間	2021年5月 ～ 2022年2月		
希望する支払方法	希望する支払方法に <input checked="" type="checkbox"/> してください(概算払いを希望される場合は、その金額)。 <input type="checkbox"/> 精算払い(全額) <input checked="" type="checkbox"/> 概算払い ( 200,000 円)		
支出予算	応募案内中の表1：①～⑦の項目ごとに記入してください。		
	区分	予算額(円)	内訳(積算根拠)
	②消耗品費	20,000	ORP 電極 1本
	②消耗品費	20,000	pH 電極 1本
	②消耗品費	60,000	胴長 4つ
	②消耗品費	34,000	被覆網 8枚
	②消耗品費	20,000	検知管(硫化物測定用) 10箱
	②消耗品費	40,000	ふるい5mm 2個
	②消耗品費	6,000	採泥容器 15個
合計	200,000		

1. 申請者（活動実施者）

氏名・団体名	干潟・水産資源再生ワーキンググループ (NPO法人野鳥やまぐち)
--------	-------------------------------------

2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 環境学習等の親水活動 <input checked="" type="checkbox"/> 活動等の広報及び啓発活動
活動名	胴長を着用した新たな干潟体験学習
活動目的	<p>山口湾やきらら浜自然観察公園で開催する干潟の生物の観察会は、子どもを中心に人気であり、自然に触れる貴重な機会となっている。参加者には長靴の着用を求め、採取した生物を水槽などに展示し、生物に触れてもらいながら観察会を実施している。しかし、長靴では、干潟の一部の浅い箇所では体験ができず、座って観察することもできないため、スタッフと同様に胴長を着用して観察したいという意見も寄せられていた。</p> <p>胴長があれば、干潟の深い場所に生息する生物の観察や、座って観察に集中すること、スタッフと同じように実際の生物調査方法を学ぶことができ、子供たちが自ら干潟に入って生物を探して観察する新たな体験学習を行うことができる。</p> <p>このため、今回、子供用の胴長を導入し、まず試験的にきらら浜自然観察公園で実施している干潟の生物観察会（親子を対象とした観察会や「子どもレンジャークラブ（対象：5、6年生）」での干潟体験学習）や、総合的な学習の授業で連携している山口市立二島小学校（対象：5年生）で導入し、行事のノウハウを積み重ねて、将来的には一般の参加者が集まる協議会の活動（榎野川河口干潟再生活動やカブトガニ幼生観察会など）での体験学習に発展させ、干潟に多種多様な生物が多く生息していることを体験してもらい、協議会の活動理解や、将来的な協議会の担い手を育成することにも繋げていきたい。</p>
活動場所	<p>活動場所は、協議会が自然再生活動や観察会実施している榎野川河口干潟（南潟）と、きらら浜自然観察公園の2箇所である。</p> <p>榎野川河口干潟（南潟）では、二島小学校の総合的な学習の授業で実施する。</p> <p>きらら浜自然観察公園では、8haの干潟（大半が泥質のため、これまでは一部の砂質の干潟に限定して活動を実施）のほか、2019年度から2020年度にかけて、本事業で汽水池の一部に海砂を投入した砂質干潟（現在、コメツキガニなどの砂質を好む生物のみ生息）を使用する。公園内の2種類の干潟を体験することで、生息する生物の違いも体験することができる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>&lt;南潟&gt;</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>干潟 海砂投入地点</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">&lt;きらら浜自然観察公園&gt;</p>



## 1. 申請者（活動実施者）

氏名・団体名	干潟・水産資源再生ワーキンググループ (国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 環境・応用部門 沿岸生態システム部 重田 利拓・辻野 睦)
--------	--

## 2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・モニタリング <input checked="" type="checkbox"/> 活動等の広報及び啓発活動
活動名	干潟域を生活史で利用する魚類の生態と成育場の生息環境に関する研究
活動目的	干潟域を成育場等として利用する魚類の食性など生態調査により、干潟の鍵種であるアサリ、ヤマトシジミ等砂浜性二枚貝の捕食（食害）状況を把握するとともに、これらが生息する干潟の生息環境を生物指標を用いて把握する。これら環境・水産重要魚種の資源回復・再生のための基礎的知見を得る。
活動場所	山口湾-榎野川河口域（瀬戸内海）
活動内容・計画	<p>活動の内容、スケジュール等を簡潔に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて、説明資料を添付してください。</li> <li>・予算の各費用項目を使用する内容がわかるように記入してください。</li> <li>・調査研究等の成果を学会等において発表される場合は、その学会名や時期等を記入してください。</li> </ul> <p>本研究調査は、干潟の鍵種である「アサリ、ヤマトシジミ」等砂浜性二枚貝を介して、相互に密接に関係した以下の2パートより構成される。</p> <p><b>1. 魚類の生態に関する調査</b></p> <p>主に、クロダイ、トラフグ、ニホンウナギ（絶滅危惧IB類）など水産・環境重要魚類の食性調査を行う。アサリなど砂浜性二枚貝（基礎生産者のろ過食者）を重要な餌資源としていることから、それらの捕食（食害）状況も把握する。必要に応じ、DNAを用いた種同定、生体元素の安定同位体を用いた食物網・元素起源の推定などを行う。魚類から見た流域圏・干潟生産構造の把握を試みる。昨年度、クロダイによるヤマトシジミ食害を初めて報告した（シジミ漁場下流域）。漁場下流域では同資源が消滅し、現在、榎野川河口域全体で禁漁となっている。本年度は、稚貝資源の残存する漁場上流域のクロダイの食性（シジミ食害）把握、我が国でヤマトシジミを捕食する魚類のリスト作成にも取り組むたい。</p> <p><b>2. 干潟環境に関する調査</b></p> <p>農業関係では、田畑の土壤環境評価に、そこに生息する微小動物である線虫を生物指標として用いている。線虫は嗅覚に優れイヌの1.5倍もの嗅覚受容体・遺伝子を持つ。我々は、陸地の延長である干潟への適用を模索している。これまでの現場調査により、マクロベントス（ほとんどがアサリ）と線虫の現存量には正の相関関係があることを明らかにしている。昨年度は、アサリの新規着底がほとんど見られず、アサリが線虫類の個体数や科組成に及ぼす影響は顕著ではなかった。他方、シジミ漁場において、初めて汽水域の線虫相を把握した。本年度も引き続きアサリ等と線虫の関係について検証するとともに、アサリ等の成育環境を好む指標種となる線虫類を検出する。DNAによる種同定、CHN（元素）分析や粒度組成分析による泥質分析などの手法を用いる。</p> <p>これらの調査研究の成果に基づき、日本水産学会大会（日本水産学会、4月、10月）等での発表を予定している。併せて、干潟観察会や出前授業、マスコミ対応などを通じて、地域社会への貢献を果たしたい。</p>

### 3. 活動予算

申請金額	200,000 円	
予算の支出期間	2021 年 4 月 ～ 2022 年 3 月	
希望する支払方法	希望する支払方法に <input checked="" type="checkbox"/> してください(概算払いを希望される場合は、その金額)。 <input type="checkbox"/> 精算払い(全額) <input checked="" type="checkbox"/> 概算払い (200,000 円)	
支出予算	応募案内中の表 1 : ①～⑦の項目ごとに記入してください。	
	区分	予算額(円)                      内訳(積算根拠)
	①旅費・宿泊費	41,700 円                      広島-山口(公用車・高速道、日帰り) : 2,200 円×6 回×2 名=26,400 円、学会 : 15,300 円(1泊2日)×1 回
	②備品・消耗品費	55,000 円                      サンプル容器、試薬、採集器具、解剖・測定器具、書籍購入等
	⑥事務管理費	15,000 円                      事務用品費、郵送費、印刷・製本費等
	③印刷費	20,000 円                      論文別刷代
	⑦その他	68,300 円                      試料分析費(プライマー合成、DNA シーケンス、同位体等)、英文校正費
	合計	200,000 円



### 1. 申請者（活動実施者）

氏名・団体名	干潟・水産資源再生ワーキンググループ 後藤 益滋
--------	--------------------------

### 2. 活動計画

活動区分	■ 調査研究・モニタリング																																																																	
活動名	手のひらサイズの超小型シーケンサーによる解析の検証及び希少種の把握																																																																	
活動目的	同上																																																																	
活動場所	山口湾河口干潟及び流入河川																																																																	
活動内容 ・計画	<p>従来の調査法では、生物相の把握には直接採取するか、または潜水などによる木調査が主流であった。近年では、環境DNA解析と呼ばれる水中に溶け込んだ生物の糞や粘液片から生物相の把握が可能となりつつある。</p> <p>本研究では、従来よりも超小型の次世代シーケンサー（オックスフォード社製、Minion）による干潟及び流入河川の魚類相の網羅的解析を行うことが可能かどうかを検証するとともに、希少種の検出を目的とする。本シーケンサーが従来の次世代シーケンサーと同等の性能確保が可能か否かを証明することも本研究の目的でもある。</p> <p>スケジュール、サンプリング定点、手法については以下のとおりである。</p> <p>○サンプリング定点（予定） 榎野川河口、南潟、土路石河口、南若川河口（4～5地点）</p> <p>○手法：採水試料をGFFディスクフィルターでろ過→抽出 →ライブラリ作成、品質チェック→シーケンシング</p> <p>表 スケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>モニタリング</td> <td>↔</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>↔</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>解析</td> <td></td> <td></td> <td>↔</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>↔</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>データ整理</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>↔</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>↔</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>↔</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	モニタリング	↔					↔							解析			↔					↔					データ整理					↔					↔			報告書作成											↔	
項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																																																						
モニタリング	↔					↔																																																												
解析			↔					↔																																																										
データ整理					↔					↔																																																								
報告書作成											↔																																																							



### 3. 活動予算

申請金額	200,000円	
予算の支出期間	2021年4月～2022年3月	
希望する支払方法	希望する支払方法に <input checked="" type="checkbox"/> してください(概算払いを希望される場合は、その金額)。 <input type="checkbox"/> 精算払い(全額) <input checked="" type="checkbox"/> 概算払い (200,000円)	
支出予算	応募案内中の表1：①～⑦の項目ごとに記入してください。	
	区分	予算額(円)      内容
	消耗品	145,000      Oxford Minion スターターKit
	消耗品	80,000      ライゲーションキット
	消耗品	75,000      Index キット
合計	300,000	※助成金額は20万円として申請

### 1. 申請者（活動実施者）

氏名・団体名	カブトガニワーキンググループ 原田 直宏（山口カブトガニ研究懇話会）
--------	------------------------------------

### 2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 環境学習等の親水活動 <input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・モニタリング
活動名	カブトガニ幼生生息調査・観察会
活動目的	山口湾は、絶滅危惧Ⅰ類「カブトガニ」の産卵場・生息場として全国的にも重要な地域である。干潟におけるカブトガニ幼生の生息状況等を調査することで、生息や産卵に適した環境の再生・保全に寄与する。
活動場所	山口湾干潟（長浜・南潟）
活動内容・計画	<p>&lt;概要&gt;</p> <p>長浜及び南潟において、夏季の干潮時に年1回ずつ、県内外のボランティアや山口大学等の協力を受け、カブトガニ幼生の生息状況を調査する（平成20年度（2008年度）から継続）。また、子ども等を対象にしたカブトガニ観察会を開催し、山口湾の自然や生き物に対する関心を高めるための啓発を行う。</p> <p>&lt;調査方法&gt;</p> <p>調査は、ベルトランセクト法により実施する。区域内に1kmの調査ラインを複数（長浜区：20ライン、南潟区：5ライン）設定し、調査者は、ライン上を歩きながら、発見したカブトガニの①個体数、②前体幅（齢数を推定するため）、③発見地点（GPSを使用）を記録する。長浜の調査は8月下旬に50人程度で、南潟の調査は9月上旬に20人程度で実施する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

### 3. 活動予算

申請金額	200,000円		
予算の支出期間	2021年7月～2021年9月		
希望する支払方法	希望する支払方法に <input checked="" type="checkbox"/> してください(概算払いを希望される場合は、その金額)。 <input type="checkbox"/> 精算払い(全額) <input checked="" type="checkbox"/> 概算払い(200,000円)		
支出予算	応募案内中の表1：①～⑦の項目ごとに記入してください。		
	区分	予算額(円)	内訳(積算根拠)
	印刷費	2,500	募集チラシ(200部)
	保険料	2,400	参加者の傷害保険代(20円×120人)
	消耗品費	18,000	飲料(100円×180本)
	消耗品費	30,000	塩分タブレット等購入費(250円×120人)
	消耗品費	7,000	調査用の事務用品、電池、冷却材等
	使用料	8,100	機器等使用料
	備品費	132,000	調査用のGPS(16,500×8機)
合計	200,000		

### 1. 申請者（活動実施者）

氏名・団体名	持続可能な里海づくりワーキンググループ リーダー 船崎 美智子（株式会社ライフスタイル研究所）
--------	--

### 2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 活動等の広報及び啓発活動 <input checked="" type="checkbox"/> 募金の運営・広報
活動名	榎野川河口干潟等における里海再生活動の共感者増加に向けた取組
活動目的	①ふしの干潟いきもの募金に対する住民等からの寄付の促進 ②干潟や活動等の普及啓発
活動場所	関連イベント（きらら浜自然観察公園等）
活動内容 ・計画	<p>①募金活動 榎野川流域におけるイベントにおいて募金活動を行う。</p> <p>②干潟等に関するグッズ作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>干潟の生き物等をデザインにしたグッズを作成し、寄付者やイベント参加者に配布することで、干潟や活動等の普及啓発を行う。</li> <li>グッズには、募金の協力企業名を記載し、企業の社会貢献をPRする。</li> <li>グッズ作成に当たっては、地元小学校等との連携を検討する。</li> </ul> <p>5月：連携先との調整 6月～11月：デザイン作成 12月～2月：完成</p>

### 3. 活動予算

申請金額	80,000円	
予算の支出期間	2021年6月～2022年2月	
希望する支払方法	希望する支払方法に <input checked="" type="checkbox"/> してください(概算払いを希望される場合は、その金額)。 <input type="checkbox"/> 精算払い(全額) <input checked="" type="checkbox"/> 概算払い (67,000円)	
支出予算	応募案内中の表1：①～⑦の項目ごとに記入してください。	
	区分	予算額(円)      内訳(積算根拠)
	消耗品費	2,000      ゲーム用のぷよぷよボール (500円×4袋)
	消耗品費	5,000      ゲーム用の衣装ケース等
	印刷費	73,000      クリアファイル (1,000部)
	合計	80,000

### 1. 申請者（活動実施者）

氏名・団体名	榎野川河口域・干潟自然再生協議会
--------	------------------

### 2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 干潟環境の向上・保全、景観の保全 <input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性の向上、漁場環境の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・モニタリング <input checked="" type="checkbox"/> その他、干潟等の保全・再生に関すること。
活動名	被覆網のメンテナンス・交換・処分
活動目的	<p>榎野川河口干潟（南潟）において、実証試験や干潟再生活動を通じて、現在、268枚、2,048㎡の被覆網を設置している。</p> <p>近年、被覆網の設置枚数が増加し、定期的に被覆網をメンテナンス（洗浄）して再利用しているが、老朽化が著しく、破損したものが増加しており、被覆網を用いた調査やアサリの再生活動に支障が生じつつある。</p> <p>特に、アサリの再生は、ふしの干潟いきもの募金の寄付者が活動成果を実感できる仕組みづくりとして重要な位置づけであり、干潟再生活動やモニタリング等の機会に、ふしの干潟ファンクラブ等のボランティアに御協力いただき、被覆網を交換する。</p> <p>また、老朽化した被覆網が溜まってきたため、まとめて処分する。</p>
活動場所	榎野川河口干潟（南潟）
活動内容 ・計画	<p>&lt;被覆網のメンテナンス・交換活動・処分&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在の被覆網の設置時期、枚数等は、下表のとおり。</li> <li>被覆網の設置場所の調査状況及び破損状況等を確認し、被覆網の交換場所をWG委員間で協議し、干潟再生活動やモニタリング等の機会に、ふしの干潟ファンクラブや一般ボランティアの協力を得ながら、被覆網を交換する。</li> <li>破損せず、藻が付着しているのみの被覆網は、メンテナンス（洗浄）し、再利用する。</li> <li>老朽化や破損して使用できなくなった被覆網を処分する。</li> </ul>



### 3. 活動予算

申請金額	300,000円	
予算の支出期間	2021年5月～2022年2月	
希望する支払方法	希望する支払方法に <input checked="" type="checkbox"/> してください(概算払いを希望される場合は、その金額)。 <input type="checkbox"/> 精算払い(全額) <input checked="" type="checkbox"/> 概算払い(300,000円)	
支出予算	応募案内中の表1：①～⑦の項目ごとに記入してください。	
	区分	予算額(円)                      内訳(積算根拠)
	消耗品費	100,000                      被覆網(3m×3m) 20枚
	委託費	200,000                      被覆網処分費
合計	300,000	

